

鹿児島県出水市（国内2例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和3年11月13日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部の田畑が多い地域に位置していた。農場周囲は、植木畑などの畑と草地があった。また、農場から約50m離れて幅1mほどの水路、100m離れて幅5mほどの水路があったほか、約300m離れてため池があり、水田までの距離は約250mであった。また農場周辺地域には他の養鶏農場が複数確認された。
- ② 鶏舎の屋根にはハクセキレイとドバトが、周囲にはスズメ、ヒヨドリ、ハシボソガラスなど少なくとも8種の野鳥が認められた。
- ③ ため池には、コガモ約50羽のほか、ハシビロガモ、ヒドリガモ、オカヨシガモのカモ類約70羽認められた。500mから800mの距離の水田にはナベヅル5羽、マナヅル3羽が認められた。
- ④ 出水市の平野部は、ツル類、カモ類の大規模生息地であり、11月初旬においてナベヅル、マナヅルなどツル類が8千羽以上、カモ類も数千羽生息している。
- ⑤ 当該農場は高床式の開放鶏舎2棟から成るが、2棟は内部で繋がっており、間に扉等はないため、飼養管理は一体的に行われている。また、鶏舎2棟は、集卵施設とも扉を隔てて繋がっている。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、11月11日午前発生鶏舎で固まって死亡鶏が確認されたため、管理獣医師に連絡した。管理獣医師が死亡鶏を剖検したところ、卵墜を疑う所見が見られ、同日午後は新たな死亡鶏が確認されなかったため、経過観察することにしたとのこと。
- ② 翌12日に、昨日固まって死亡鶏が確認された場所の周囲で新たに死亡鶏が複数確認されたことに加えて、そこから離れた場所でも固まって死亡鶏が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 疫学調査時には、最初に固まって死亡鶏が確認された鶏舎とは別の鶏舎の1カ所で、上下、左右方向の複数のケージで死亡鶏が認められた。

3 飼養管理者及び従業員

- ① 当該農場では、鶏舎の飼養管理は農場主一人で行っており、集卵作業はパート従業員5名のうち、基本的に3名体制で実施しているが、農場主も集卵作業を手伝うことがあるとのこと。
- ② 集卵ベルトが正常に運転しなくなった場合等には、パート従業員が鶏舎に入って状況を確認することがあるとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者は衛生管理区域に入る際は、農場専用の作業着や下履きへの交換、手指消毒は実施せず、衛生管理区域に入ってすぐの集卵施設兼事務所において、長靴及び作業着への交換や手指消毒、手袋の着用を行うとのこと。パート従業員も同様だが、自宅で作業着を着た状態で出勤し、衛生管理区域に入る際や事務所においても更衣は行わないとのこと。
- ② 集卵施設兼事務所の入口及び鶏舎入口には踏込消毒槽が設置されていた。また、畜舎周囲には定期的に消石灰を散布していたとのこと。
- ③ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。

- ④ 飼養管理者によると、飼養鶏への給与水は井戸水を利用しており、塩素消毒を実施していたとのこと。
- ⑤ 鶏舎の床下部分に堆積した鶏糞は、3か月に1回の頻度で、市道を挟んで反対側にある堆肥舎に搬出し、堆肥化していた。最近の鶏糞搬出は10日前であった。堆肥舎には防鳥ネットが設置されていた。
- ⑥ 飼養管理者によると、毎日の健康観察時に回収した死亡鶏は、床下部分に投下し、鶏糞と一緒に堆肥化しているとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、2鶏舎同時にオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は2カ月間空舎とし、鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑧ 飼養管理者によると、車両が衛生管理区域に入場する際、動力噴霧器でタイヤ回りを消毒していたとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場内ではカラス、スズメ等の野鳥を見かけることがあるとのこと。調査時も農場の上空を飛行する多数のカラス類を確認した。また、鶏舎の裏手の隅に、雨水を貯留している沈殿槽があり、その中に腐敗した野鳥の死体を確認された。また、農場敷地内で中型哺乳類の糞便を確認した。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎内でネズミを確認することがあり、対策として自ら殺鼠剤及び粘着シートを設置しているとのこと。調査時にも、鶏舎内及び集卵施設に設置された粘着シートにネズミを確認するとともに、鶏舎内でネズミ類のものと思われる糞や足跡、かじり痕を確認した。
- ③ 鶏舎の側面及び天井換気部は金網とカーテンによって外界と隔てられていたが、発生鶏舎の天井換気部の金網に破損が1カ所認められた。壁面や天井換気部のカーテンは、設定温度以上になると自動でカーテンが巻き上がる設定になっていた。
- ④ 鶏舎側面の金網の一部で、網目が広がっており、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ⑤ 鶏舎2棟間の集卵用バーコンベアは屋外を通っていたが、一部に塞がれていない隙間を確認した。